midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

September 2010 No.290-291

９月号の１枚：FSC継続審査のヒアリングを受けるForestNova神宮代表

［巻頭言］国際基準：“FSC認証の森”に取り組む二つの理由

「ボーダー」を取り外す活動

世界はグローバル化し国境感覚の希薄化が進んでいる中で、環境問題は地域基準では済まなくなってきている。即ち、地球レベルで考えねばならいと云うことだ 。

１．FSCでは、世界規模の「環境・経済・社会がバランス良く保たれていながら持続的な森林経営が成されていること」を目指している。このことから当会は、FSC基準を選択している。ただし、他にも認証制度はあるが、森を守る気概は同じであり、協力を惜しまない。

２．当会は大衆・市民団体であるから「全ての人との協働：市民＋学際＋業際＋行政・司法・立法」を目指している。即ち「一人の専門家より９９人の普通の人々の参加」。その点でも、FSCは広く門戸を広げている。

当会・市民団体緑のダムは、５年毎に行われるFSC基準の審査をクリアして、国際認証の森林管理者として、この８月で第２期目・６年目の活動に入る。当会活動は「全ての人々」が対象であるから参加したい人には、全てを開放している。年齢・性別・国籍など無条件で活動に参加できる。また、地域を越えて各地との交流も進めている。最近は、国内遠隔地（静岡・茨城・北海道）や外国（英国・オーストラリア・中国など）との交流の実績もある。

自然を守るには、ボーダー（border：国境・境界）があってはならない。我が国の林政はボーダーが壁になっていると思う。難しい問題だが、これは取り外して取り組むべきだと考えている。

石村黄仁（本会、代表理事）

来月の定例活動

2010.09

９月　５日（第一日曜日）；森林整備活動、担い手育成、技術向上。「持続的森林経営：森林地団地化・集約施業」を目指す。弁当持参、参加費：400円

９月１９日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動、主食・自分のお椀・箸、飲料水。参加費４００円

[定例活動]小原本陣の森

8月1日（第一日曜日）

8月になって最初の活動となりました。

山の中は他の場所よりも少し涼しいとはいえ気温も高くなり、熱中症など体調管理に気をつけなくてはいけなくなりました。
今回の活動では他大学の学生(関東学院大学、東京都市大学)も参加し、午前中は主に土留め、午後からは主に径路作りをしました。

午前中は3班に分かれての活動でしたが、他大学の人たちの中にはあまり活動に適した服装でない人もいて、その人たちはどう活動に参加していけばいいのか迷っているようでした。
また、初心者に活動内容を上手く伝えることができず、それでどうすればいいのか分からず戸惑っている人たちもいたので、活動内容を上手く伝えることも重要なんだと知らされました。それでもしばらく時間が経つと活動に積極的に参加してくれる人もいました。
作業は足場が悪く、傾斜もきついので慎重に行いました。上下作業は上から物が落下すると危険だということで避けるようにということを学びました。実際足場の石などが下方に落下したりしていました。

午後は木を使って径路作りを行いました。沢沿いで枝や葉がかなり溜まっていて、まずはそれらの除去作業から開始しました。それが終わると木を設置していくくのですが、地形が複雑で割と苦労しました。

その後時間が経過し、作業終了となりました。作業終了後は基地まで沢を下り、駐車場で反省会を行い、そこで解散しました。

瀬戸智大（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

8月15日（第三日曜日）

たくましき成長、百日紅、栃の樹

３５度・３６度が続くこの盛夏、森の中も数年前に植えた樹々たちが見事な盛りを見せていた。先ず、森の入口では百日紅（さるすべり）が濃いピンクのレースの様な花がたわわに揺れて、お出迎え！。「望星の森」では、側に立つ人間が小さく見える程、２m位にすくすくと育って、素晴らしい、栃の樹！。

夏休み・お盆の真ん中にあって猛暑にが続くせいか、さすがに少ない、この日の参加者は、４１人。特別参加は、相模原市の「宇宙の学校　at 淵野辺小」の「親子・緑のダム体験学校」参加者の６組１２人。何でも相模原市の淵野辺小の直ぐ側に「宇宙技術研究所；JAXA」があって淵野辺小学校の子供たちが〝森の宇宙：緑のダム・探検旅行”をしたいとか。

森林整備班と木工班は、発明家の山口さん考案による「組み立て式簡易製材機」の試運転に取り組む。この製材機の仕組みは、至極簡単。足場ジャッキ、パイプ、三連クランプ、アルミフレームの組み合わせで、わずかの費用でできるもの。森の中での間伐作業現場でも組み立て、製材も可能とか。試運転の始め、滑り出しが悪かったのは、この仕組みのせいと云うよりはチェンソーの刃が良く研がれていなかったため。三重松坂から久々の里帰りをした元Forest Nova滝沢先輩を始め皆で取り組んで、午前中には無事に完成させた。今後も試行錯誤をしながら完成させ、是非、沢山の森林ボランティアに役立たせて欲しいと山口さん。

また、今日は〝国際FSC認証の森“の６年目、第２期の審査日。認証機関のSGS・矢口審査部長と佐々木主任審査員による活動チェック、午前中は書類審査。お昼休みを利用してのグループヒヤリング。

午後は、森林活動現場巡察。矢口審査部長は「望星の森」の５年ぶりに見た「栃の樹・幼樹」が、こんなに大きくなったのか！・・と感慨深げに見ていた。今後の計画は？・・等と宮村班長に質問など。

森林整備班の径路作りは、水はけが良い様にと土留め作り・雁行式とは角田班員の知恵。

生命の森宣言班は、ベテラン勢がバリバリと下草刈り、林床整理。

学生連合ノバは、若者パワーのダイナミックな林中・見事な径路作りに感心した私！

体験ファミリーの「宇宙の学校」の子供たちも真夏日の草むしりの大変さ、虫や花のふれ合いなど。子供たちは終わりの会で元気に報告。

造園班の皆さん、炎天下にご苦労さま、お疲れ様！。

伊藤小夜子（本会、会員）

左：百日紅の花
右上：簡易製材機を試す
右下：ForestNovaの森にて

[報告１]
緑のダム湘南活動報告

７月９日（金）

この日は、旺盛な生命力ではびこる夏草を、手鎌と刈り払い機で、刈り払いました。前々回に発見した、ホオズキやこれからの定番の花であるヤブランやオカトラノオなどを保護しながら、ヤブジラミ、チヂミザサ、ワルナスビやツタ類を除去し、すっきりとしました。けれども、あと２週間もすれば元の黙阿弥となることには違いありません。秋が来るまでエンドレスの戦いは続きます。

なお、フロントヤードに春先に種をまいたタデアイは生育順調、最近色々と盗掘事例が

多く、嫌な雰囲気の湘南の森にとっての唯一の明るいニュースです。

7月２３日（金）

当会が保有しているチェーンソーの製造元であるＳＴＩＨＬ社の代理店である、（株）シンコー社の廣田さんを訪問、持ちこんだ機械のチェックと目立ての指導を受けました。さらに、ヘルメットやチャブスという下半身防護装備も購入し、チェーンソーを使った作業の安全に、万全を期すこととしました。廣田さんは機械整備のスペシャリストで、今後色々と私たちの助けとなってくれそうな頼もしい存在であることを確認しました。

佐藤憲隆（緑のダム湘南の森）

タデアイの生育は順調

[報告２]
第二期・FSC審査報告

８月１５日（日）

８月１５日（第三日曜日・定例活動日）１０の原則・５６の細則からなる国際基準の第二期・６年目の「ＦＳＣ認証」審査を認証林”若柳・嵐山の森”現場で受けた。何もしなくても汗の流れる真夏日・盛夏のど真ん中。

午前中は先ず、審査員（矢口認証審査部・部長、佐々木主任審査員）による地権者である鈴木様への直接ヒヤリングは、当会に対する温かいご理解の回答に終始した。

活動基地現場での最も基本となる全２２項目の書類審査は、寸分の妥協を許さない厳しいものであった。特に、森つくり方針、森つくり計画、モニタリングについては、突っ込んだ質疑であった。

お昼休みを活用しての各班に対するヒヤリングは、時間一杯を使って①内野（嵐山責任者）②佐藤（生命の森宣言）③神宮（学生連合ForestNova）④宮村（望星の森）⑤丸茂（お花畑班）⑥大坪（木工班）⑦長崎（緑のダム体験学校に参加）に対して実施された。

午後は、各活動班フイールドの巡回と森全体の管理状況の視察。班毎の会員への質疑を含む現場活動に審査員の鋭い視線は光る。

[全工程終了後・終礼時間での講評]

評価点：

①書類審査はFSCの求める一定の基準に達している。

②おそらく、世界一小さい（41ha）認証林なるが故に（記録では英国のポンドウッド社・60ha・造園業、本業の速水林業に及ばないにしても）行きとどいた森林管理。

③如何にもボランティア活動らしい多様で・ゆったりと、楽しげな現場活動。

上：径路整備についてヒアリング
中：木材の管理状況を確認
下：望星の森にて

改善点：
①各班の活動計画が、森つくり計画書の中に反映されていない。
②モニタリング報告が不十分である。
③利害関係者リストの再整理が必要。

総評：
「NPO法人緑のダム北相模」は、FSCの求める審査基準に達している。審査会は認証機関ＳＧＳ本部を通じてＦＳＣ本部（本部：ドイツ、ボン市）に認証の森に相応しい森林であると推奨・報告する。正式認証書授与は、１０月中旬。

石村黄仁（本会、代表理事）

[報告３]

緑のダム体験学校、中国書法家協会、成田山新勝寺の留学生を受け入れ

その様子を写真でご紹介　　詳しい内容は次号で報告します

8月25日（水）

[事務局からのお知らせ、お願い]

今月から会報の郵送を取りやめています。継続して郵送を希望される方は以下をお読みください。

　現在、年会費は3000円でお願いしています。NPOが増えて助成金確保が難しくなって会の運営が難しくなっています。今月より、これを4000円にお願い致します。尚、いままでは毎月のニュースレターを郵送していますが、本会ウェブサイトのみで閲覧していただける方は年会費を据え置かせていただきます（特に依頼がない場合は郵送はいたしません）宜しくご協力、お願いいたします。

今年もネイチャーフェスティバルに出展します。

９月１９日（日）に開催される川崎ネイチャーフェスティバルに今年も出展します。今年の出展内容は毎年恒例の積み木広場、全国森林インストラクター神奈川会が中心となって準備をしている草木染め、学生連合ForestNovaも木の時計づくりなどを企画しています。ぜひお越し下さい。川崎ネイチャーフェスティバルについてはNPO法人幸まちづくり研究会のウェブサイト（http://www.s-machiken.net/）をご覧ください。

メディア掲載情報

多彩な活動を展開する本会の新聞等へのメディア掲載情報をお知らせします。

・上智大学卒業生イベント（ASF）へ積み木を貸し出しました。本会の積み木３万個でアンコールワット遺跡を再現していました。当日の様子は５月３１日の朝日新聞に掲載されました。ウェブはこちら、http://www.asahi.com/national/update/0530/TKY201005300231.html

・神奈川新聞、環境新時代第４部自然再生⑤、森の魅力引き出す力（７月２日）、という記事の中で本会の活動が紹介されています。こちらはまだ同新聞社のウェブサイトには掲載されていません。

参加にあたって：

持ち物について

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸・・何か美味しいものを準備する)

危機管理・救急対応

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください
協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ